

令和6年度第1回「しがこども体験活動指導者研修会」 を開催しました

令和6年5月29日(水)、滋賀県庁にて、子どもの体験活動に関わる団体、施設、指導者等が一堂に会し、講演や意見交換等を通して、子どもの体験活動の充実と支援者のスキルアップを図ることを目的に、令和6年度第1回「しがこども体験活動指導者研修会」を開催しました。会場参加者13名、オンライン参加者26名、合計39名の参加がありました。

研修会では、自然体験活動安全管理マニュアル作成の手引きについての説明、学校法人七松学園認定こども園七松幼稚園園長・理事長 亀山 秀郎 氏を講師にお招きし、「マニュアルをふまえた子どもたちの体験活動の充実に向けて」と題した講演、参加者同士の意見交換を行いました。



日 程	内 容
13:10	受 付 (オンライン接続開始)
13:30	開会行事 開会あいさつ 日程説明
13:40	説 明：自然体験活動安全管理マニュアル 作成の手引きについて
13:50	講演「マニュアルをふまえた子どもたちの 体験活動の充実に向けて」 講師：学校法人 七松学園 認定こども園 七松幼稚園 園長・理事長 亀山 秀郎 氏
15:05	休 憩
15:15	グループ交流、活動等の情報交換
16:00	グループより発表 講師より助言
16:30	閉 会

<講演の様子>「マニュアルをふまえた子どもたちの体験活動の充実に向けて」

長年にわたり幼児から大人までを対象とした自然体験活動に取り組まれている亀山先生から、安全に自然体験活動を進めるため、どのようなことに配慮すればよいかご講演頂きました。ご自身の経験や園での取り組みや具体的な事例を紹介して頂きながら、大変分かりやすく説明して頂きました。「3才児から小学校6年生までの子どもたちが怪我をしやすい体の部位はどこか」「怪我が起きやすい場所はどこか」「(実際の遊具の写真を見て)どんな危険が考えられるか」などのクイズも取り入れて頂き、主体的に考えながら先生のお話を聞いておられた参加者が多かったのではないのでしょうか。

リスクとハザードのお話や、一部の指導者のみが活動上で起こりうる危険を認識していればよいということではなく、参加者も含め活動に関わる全員が共有することが大切であること、また、動画を活用すると有効であることなどを教えて頂きました。



<参加者同士の情報交換の様子>

講演後は、参加者同士3～4人のグループになって、自団体の紹介や周知・広報の仕方などを話題に、交流して頂きました。周知・広報について悩んでおられる方が多く、地域のまちづくりセンターに相談する、SNSを有効に活用するなどの意見が出ました。



<参加者アンケート>

参加いただいた皆様のアンケートの一部を紹介します。

講演「マニュアルをふまえた子どもたちの体験活動の充実に向けて」について

・クイズやグループワークを含んだ講演で、リスクや危機管理についてしっかり考えるきっかけになった。
(しがこども体験学校登録団体)

・マッチの体験方法や、動画を使って事前に伝えるなど、時代に合わせたやり方を伝えてくださったのがよかったです。(しがこども体験学校登録団体)

・統計データやご自身の園での事例を取り上げながら、事故の状況や対策について説明いただき、分かりやすかったです。特に、リスクコミュニケーションを実施し、運営側と参加者の双方で、危険性の認識を共有しておくことが大切であるというお話が印象的でした。お話頂いたことを活かし、安全に体験を実施できるようにしたいと思います。ありがとうございました。(しがこども体験学校登録団体)

・どんなところに危険が隠れているのか、関わる人全員で見つけること(リスクコミュニケーション)はとても大切だと思いました。また安全探しの視点も持っていたいと思いました。(市町教育委員会、公民館・施設関係者)

・子どもの体験出来る場を危険だという理由で排除しがちな事を反省し、環境改善で事故は予防できるということを再認識することが出来た。今の子ども達に必要な体験、事前の準備、予防を職員同士で話し合い、今後の保育に取り入れ子ども達が自主的に活動出来る場を増やしていこうと思う。(放課後児童クラブ)

情報交換について

- ・他の団体との連携について話し合いを行った。色々な立場の意見が出てきたため、とても参考になりました。ありがとうございました。(公民館)
- ・普段関わることの少ない業種の方々と交流ができ、知見が広がった。(民間企業)
- ・他団体の取組やマニュアル等のお話が出来て良かった。(しがこども体験学校登録団体)

すまいる・あくしよんの取組を広げよう!



【子ども】わくわく感動する気持ちを持つとう

【おとな】文化・芸術・自然・社会に触れる体験を増やす